



■■■ショートコメント■■■

◆『昼顔』と聞けば、私にはカトリーヌ・ドヌーヴが主演したフランス映画『昼顔』（6年）を思い出す。しかし、最近の人はそうではなく、2014年夏に放映された連続TVドラマ『昼顔～平日午後3時の恋人たち～』を思い出すらしい。

夫以外の男性と恋に落ち、人生を狂わせていく人妻たちの物語は、“禁断の恋”という枠を超えて、恋の本質を探る大人のドラマとして注目され、社会現象にまでなったようだ。そしてまた、私は全く知らなかったが、このドラマで主人公木下紗和を凜としたまなざしで演じた上戸彩は、女優として新境地を開拓し、木下紗和と愛し合う北野裕一郎役の斎藤工は、陰のある色気で大ブレイクしたようだ。

◆そんな大ヒットしたTVドラマを映画化しない手はない。近時の邦画ではその手の企画が多く、本作は木下紗和と北野裕一郎が完全に別れてしまった後の新たな物語を描くものだ。映画の冒頭、紗和とその夫・笹本俊介、裕一郎とその妻・乃里子（伊藤歩）の四者間で調印された「確認書」が読み上げられるが、それによると、今後、紗和と裕一郎は一切の接触、連絡が禁じられている。それに続いてスクリーン上には、ある海辺の町で杉崎尚人（平山浩行）が営むレストランでアルバイトしながら、狭いアパートで孤独な生活を送る紗和の姿が登場する。これを見ればきっちり確認書の条項が守られていることがわかるが、これでは映画のストーリーが進展しないのでは？

若干そんな心配もしたが、ある日紗和が目にしたチラシには、今は大学の非常勤講師となっている裕一郎がある町でホテルに関する講演を行うとの記事が……。しかして、そこを見た紗和の心境は、「神様、私を試しているのでしょうか？」となる。さらに、チラシによれば、「決して、もう二度と。せめて、もう一度。」というのが紗和の心境らしい。

こんな紗和の「気持ちの揺れ」が本作のスタートになるわけだが、そんな都合のいい解

積っており・・・？弁護士の私にはそう思えてしまうが、映画の脚本としてはなるほど、なるほど・・・。

◆一度清算し、解決したはずの「不倫」の「延長戦」は、このように展開していくの？本作中盤、清流が流れるホテルの住処を「約束の場所」とした二人の逢瀬を見ていると、なるほど、なるほど・・・。

そこでは肉体関係を中心としたドロドロした男女の関係ではなく、ペ・ヨンジュンとチェ・ジウが共演した韓国ドラマ『冬のソナタ』を彷彿させる純愛感がいっぱい。そして、ある日、やっぱり別れようという形で二人の気持ちが整理できたとき、運悪く(?)裕一郎の行動をチェックに来た乃里子の目に、一緒にいる二人の姿が目撃されることに・・・。

さあ、こうなると嫉妬に狂う乃里子と、いくら申し開きしても通用するはずのない裕一郎と紗和との再度の「攻防戦」になっていくが、仕事上そのような姿をいっぱい見てきた私は、いささかうんざり・・・。

◆テレビドラマで不倫ドラマのすべての要素をさらけ出してしまうと、別れた後の二人をテーマにした新作映画(本作)では、もうネタはないのでは・・・？そんな心配もあるが、本作を見ていると、なんの、なんの。ひねり出そうと思えば、いくらでも脚本は書けるものだ。

本作では、紗和の元夫である笹本俊介は全く登場しないが、それに代わって(?)ストーリー展開上微妙な役割を演じるのがレストランのオーナー、杉崎尚人。ワケありらしい紗和に対して何やかやと興味を示し、いろいろとチョッカイを出してくる展開が本筋のストーリーの微妙なスパイスになっているので、それに注目!とはいっても、本作のメインストーリーは、あくまで、裕一郎の取り合いを巡る紗和と乃里子の女同士の闘いと嫉妬。その展開は、あっと驚く様々な事態の登場を含めて、単純な神経の男たちにはとても読み切れないので、興味のある人は自分自身の目でしっかりと。もともと、2時間たっぷり不倫の展開を見せつけられると、大いに疲れること間違いなし・・・。

2017(平成29)年4月28日記